

“正”の表す「ちょうど」とは何か？

— “正想 VP₁的时候 VP₂” の訳し方をめぐって—

伊藤 加奈子

キーワード：副詞 接続表現 動作性 偶然性 日中比較

1. “正”について

中国語の“正”には様々な意味があるが、副詞用法としては概ね次のように説明されている。

《現代汉语八百詞》における“正”の項目説明：

〔副詞〕

1. 表示动作在进行中或状态在持续中。(動作が進行中、もしくは状態が持続中であることを表す)

a) 正+動/形+着+呢。単音節動詞、形容詞要帶‘着’，雙音節以上可帶可不帶。雙音節動詞或短語的前後有介詞短語時，單音節動詞後面有介詞短語時，句末可不加‘呢’

(正+動詞/形容詞+着+呢。單音節動詞/形容詞には‘着’をつけなければならない。二音節以上には付けても付けなくてもよい。二音節動詞もしくはフレーズの前後に介詞フレーズがあるときや、單音節動詞の後ろに前置詞フレーズがある場合、文末に‘呢’を付けなくてもよい)

b) 正+動/形+着。用于复句中前一小句，表示在某一动作进行中另一动作发生。

(〔正+動詞/形容詞+着。〕複文の前節で用い、ある動作が進行中に別の動作が発生することを表す)

c) 没有否定式。(否定形はない)

2. 表示巧合，恰好，刚好。(“巧合”、“恰好”、“刚好”を表す)

a) 正+動。(正+動詞。)

b) 正+形。(正+形容詞。)

3. 加强肯定的语气。(肯定の語気を強める)

副詞“正”の説明における「2. “巧合”、“恰好”、“刚好”を表す。a) 正+動詞。」の例文としては、以下のものが挙げられている。

- 你来得真巧，我正要找你 (いいところに来た、ちょうど君のところに行こうとしてたんだ)
- 正出门，车就来了 (ちょうど家を出たら、バスがすぐに来た)
- 到剧场正赶上开演 (劇場に着いたらちょうど開演に間に合った)

“正”は日本語で訳される場合、「ちょうど」が最も当てはめて使いやすいだろう。副詞用法説明の1、いわゆる「進行・持続」表現にみられる“正”についても、訳文中では「ちょうど」が多用されるが、中国語の中では1と2は別用法として見なされている。1は下位項目のa) b)にあるように共起する文法形式が定められていることから、その弁別はしやすいと言えるだろう。

では中国語の“正”と日本語の「ちょうど」とではどのような違いがあるのだろうか。本論は“正想 VP₁的时候 VP₂”とその日本語への訳し方を中心に、“正”と「ちょうど」との差異について明らかにし、その要因を探ることを目的とするものである。

2. “正想 VP1 的时候 VP2” を日本語に訳す場合

助動詞“想 VP”は「～したい」という願望を表す。しかしこれが副詞“正”の修飾を受けて使われている場合、日本語での訳し方としては「(ちょうど)～したい」よりも「(ちょうど)～しようとする」といった、単に頭の中だけで願っている段階というよりは、寧ろアクションを起こしかけている段階でとらえた方が適切になる場合が多い。

1) “好了! 快吃饭了! 再不动筷子啊, 林嫂煮的好菜都要冷掉了!” 单耀荣笑了起来。

“哇, 好丰盛喔!” 徐子騫正想捡菜给范芸熙, 没想到单均昊领先了一步, 无奈的, 徐子騫低头笑了笑。

テレビドラマ《王子变青蛙 剧本版》より

1) 訳 「よし! 食事にしよう! 早く食べないと、林さんが作ったおいしい料理が冷めてしまうぞ!」单耀荣が笑った。

「わあっ、随分たくさんだなあ!」徐子騫は料理を范芸熙に取り分けてやろうとしたが、单均昊に先を越されてしまい、仕方なく、頭を下げてちょっと笑った。

下線部“徐子騫正想捡菜给范芸熙”は「徐子騫は料理を范芸熙に取り分けてやりたかったが」と訳してもこの場合いいだろうが、小説の地の文で登場人物の願望について直接書くのと、登場人物が起こした(もしくは起こそうとした)行動のみを書くのではニュアンスが異なってくるだろう。日本語では殊に願望などの心情表現を地の文で描くと、当該人物視点で物語を進めているような、そのキャラクターに著者が肩入れして話を進めているような効果が出てくるようである。

1) の“正想 VP1”はアクションを「起こしかけている」のかどうか不明瞭ではないかと思われる向きもあるかもしれないので別の例も見てみよう。

2) 说有一只乌龟, 一天路过一个火车站, 它正想爬过去的时候, 突然开过来一辆火车, 乌龟由于躲闪不及, 被火车压了过去, 等火车过去了以后, 乌龟发现自己没有死, 你猜是为什么呢?

答案: 它在做梦。你猜对了吗?

中国語の冗談クイズより

2) 訳 1 匹のカメがいて、ある日駅を通りがかり、ちょうど這って通ろうとしたとき、突然列車がやってきて、カメは避けきれず、列車にひかれてしまったが、列車が通過したあと、カメは自分が死んでいないのに気が付いた、それはどうしてか?

答: そのカメは夢を見ていたから。正解しましたか?

3) 正想偷偷摸一下的时候, 被妈妈发现了, 正是不郁闷^{注1)}! (ボイルした後フックに掛けて吊るした状態の大きなブロック状の豚肉のすぐ傍に、手を伸ばしかけている小さな子供が立っている写真について添えられた説明文)

ブログ日記より

3) 訳 ちょうどこっそりちょっとだけ触ろうとしたとき、ママに見つかっちゃった、本当に気分が重いなあ!

2) は引っ掛けなぞなぞのようなものであるが、これはこの文を読む人に「カメが線路の上を通ろうとアクションを起こし限りなく線路に接近しているその時に、列車がやって来てひかれてしまった」という光景を頭に思い浮かべようとしているものである。「ちょうど這って通ろうと思ったときに」との日本語で訳すと、列車が来て容易く轢かれてしまうぐらいに線路から近い場所に身を置いているという意味には解釈しにくい。この場合単に「通過したい」とカメが頭の中だけで願っただけでなく、線路の上近くに限りなく身を乗り出している段階にまで進んでいると解釈するのが妥当である。

3) は幼い我が子の画像をネット上に掲載してその愛らしい日常を紹介する子育てブログからである。“正想 VP1 的时候”に続く後節、この例では“被妈妈发现了”であるのだが、「ママに見つかっちゃった（気付かれた）」ということは、「吊るしてあるこの変な何かを触ってみたい」という子供の願望が傍目（この場合はブログ子育て日記の主である、写真撮影した母親）にも見て分かるようなアクション＝「すぐ傍に立っている／はっきりと肉に手を伸ばしかけている」で既に明らかになっていることが分かるだろう。

この“正想 VP1 的时候 VP2”部分であるが、日本語訳では「ちょうど」を後ろの VP2 を修飾するようにしても成立する。

3) 訳 ちょうどこっそりちょっとだけ触ろうとしたとき、ママに見つかっちゃった、本当に気分が重いなあ！

4) こっそりちょっとだけ触ろうとしたとき、ちょうどママに見つかっちゃった、本当に気分が重いなあ！

日本語の「ちょうど～しようとしたとき、～だ」は「～しようとしたとき、ちょうど～だ」の形にしても、ほぼ似た意味で通用することが多い。更には「～しようとしたちょうどそのとき、～だ」のように、時間そのものを「ちょうど」が修飾することもままあるぐらいである。もちろん「ちょうど」が修飾している対象が何であるかで焦点の置き方が違ってくるのでニュアンスの違いは当然あるだろうが、ここで大事なことは「ちょうど」の位置の違いが、文の成立度合いにまで影響を及ぼすものではないということである。

一方、中国語の“正想 VP1 的时候 VP2”では“想 VP1 的时候正 VP2”のように、副詞“正”を VP2 にかかる形にすると、文の成立度合いは日本語と比べてかなり低くなる。

5) ??想偷偷摸一下的时候，正被妈妈发现了，正是不郁闷！

この文が成立しにくくなる理由について、「願望の助動詞“想”から副詞“正”の修飾をはずしてしまった所為ではないか？」と思われるかもしれないが、それは違う。

6) 想偷偷摸一下的时候，被妈妈发现了，正是不郁闷！

“想 VP1 的时候 VP2”の形でも、これは実は成立するのである。もちろんアクションをまさに起こしかけているという意味合いについて、副詞“正”が付いていればそれをより明確に示し伝える効果があるわけだから、自ずとよく目にする形になるのであるが、“正”がなかったからといって文成立には影響しないのである。ということでやはり、“想 VP1 的时候正 VP2”の成立が難しくなる理由は VP2 を副詞“正”が修飾しているということに求めるほかない。

7) 我正想按门铃的时候，他出来了。

7) 訳 ちょうどドアチャイムを押そうとしたとき、彼が現れた。

8) ??我想按门铃的时候，他正出来了

9) ドアチャイムを押そうとしたとき、ちょうど彼が現れた。

10) 我正想去买东西的时候，田中给我打电话来了。

10) 訳 ちょうど買い物に行こうとしていたとき、田中から電話がかかってきた

11) ??我想去买东西的时候，田中正给我打电话来了。

12) 買い物に行こうとしていたとき、ちょうど田中君から電話がかかってきた

13) 我点了一份鳗鱼饭，再要了两碟刺身。正想吃的时候手机响了，我看见是一个陌生的号

码, 是从广州打来的。

《你听见风吹的声音吗》より

13) 訳 私は鰻丼を頼み、あと刺身を二皿注文した。ちょうど食べようとしたとき携帯が鳴り、見ると広州からの見慣れぬ電話番号だった。

14) ??我点了一份鰻鱼饭, 再要了两碟刺身。想吃的时候手机正响了, 我看见是一个陌生的号码, 是从广州打来的。

15) 私は鰻丼を頼み、あと刺身を二皿注文した。食べようとしたときちょうど携帯が鳴り、見ると広州からの見慣れぬ電話番号だった。

例7) 8) 10) 11) はネイティブスピーカーチェックを経た作例であり、13) は小説からだが、“想 VP 1 的时候正 VP 2” ではやはり成立しにくい。インフォーマントの中には完全な非文ではないのではという反応もあったので「??」マークで示しておいたが、“正想 VP 1 的时候 VP 2” に比べ自然さに欠けるのは確かなようである。

この“正想 VP 1 的时候 VP 2” → “想 VP 1 的时候正 VP 2” へ変換してのチェック作業であるが、文によっては完全に成立しないと複数のインフォーマントが揃って答えたものもある。

16) 昨天半夜, 平时难得做梦的我却做了一个梦, 梦里和别人抢辣椒吃, 抢呀抢呀, 好不容易抢到手了, 正想吃的时候醒了………
ブログ日記より

16) 訳 昨日の夜中、いつもはめったに夢を見ない私が珍しく夢を見て、夢の中で他の人とトウガラシを食べようと奪い合っており、しきりに取り合っていて、やっとのことで手に奪い取って、ちょうど食べようとしたとき目が覚めた……

16) は“梦中的红辣椒” = 「夢の中のトウガラシ」というタイトルで書かれた、自分の見た少し変わった夢について書いているブログ日記からである。夢の中において良いことであれ悪いことであれ、何かインパクトのある事態が迫ってきていよいよ……という瞬間に目が覚めて現実世界に引き戻されたことに気付くというのは、人間誰も一度は感じた経験があるだろう。「ちょうど～しようとしたとき目が覚めた」は「～しようとしたときちょうど目が覚めた」であっても日本語では問題なく成立するのだが、“正”を“想 VP 1 的时候”の後ろに移動させると非文となる。

17) *昨天半夜, 平时难得做梦的我却做了一个梦, 梦里和别人抢辣椒吃, 抢呀抢呀, 好不容易抢到手了, 想吃的时候正醒了………

18) 昨日の夜中、いつもはめったに夢を見ない私が珍しく夢を見て、夢の中で他の人とトウガラシを食べようと奪い合っており、しきりに取り合っていて、やっとのことで手に奪い取って、食べようとしたときちょうど目が覚めた……

これまで“正想 VP 1 的时候 VP 2” → “想 VP 1 的时候正 VP 2” に置き換えて文の成立度合いを見てきたが、この17)は複数のインフォーマント・チェックでも完全に非文だという、最も強い反応が得られている。

3. “正” とその他の副詞

前節では“正想 VP 1 的时候 VP 2”を“想 VP 1 的时候正 VP 2”とすることが難しいということを確認した。但しこの構文において“正”以外の副詞が VP 2 を修飾している例ならいくらかもある。

19) “在屋子里你看见了一个又红又大的苹果，你正想吃的时候又进来了一个人，也是又累又渴，你是把苹果分给他一半还是全给他，或者是根本就不给？”

“分给他一半。”

《欲望》より

19) 訳 「部屋の中で君が赤くて大きなリンゴを目にして、それをちょう食べようとしていたときまた別の人が入ってきて、その人も疲れていて喉が渴いているとしたら、君はリンゴをその人に半分あげるかそれとも全部あげるか、それとも全くあげないのかどれかい？」

「その人に半分あげるわ」

日本語だと「それを食べようとしていたときまた別の人が入ってきて」は、成立はするだろうが、ともすれば誤解を招きかねない表現である。この会話中に見られる仮の設定は、リンゴの置いてある部屋の中に先に自分がいてそこにもう一人別の人間が入ってくるという、つまり部屋の中にいる人間は全部で2人だということである。それはリンゴを“分给他一半”＝「半分その人に分けてあげる」と台詞にあることから窺い知れる。だが、日本語の「また別の人が入ってくる」であると「自分+別の入」に加え「またもう一人別の入」という、部屋の中にいるのは全部で3人という解釈も持ちかねない。“一个人”の訳し方については、「一人の入」とか「他の入」とか「誰か」といった語を選択する余地はあるが、いずれも「また」がつくと同様の解釈に傾くのではないかと筆者は考える。

20) ?? “在屋子里你看见了一个又红又大的苹果，你想吃的时候正进来了一个人，也是又累又渴，你是把苹果分给他一半还是全给他，或者是根本就不给？”

“分给他一半。”

21) 「部屋の中で君が赤くて大きなリンゴを目にして、それを食べようとしていたときちょうど別の人が入ってきて、その人も疲れていて喉が渴いているとしたら、君はリンゴをその人に半分あげるかそれとも全部あげるか、それとも全くあげないのかどれかい？」

「その人に半分あげるわ」

“想 VP1 的时候 正 VP2” の成立度が低いことは既に述べたとおりだが、更に言えば、例えばこの場合では“正”よりも“又”の方が選択されるという、これらの副詞に内在する性格の違いがあるのではないかとということになる。

日本語： ちょうど > また

中国語： 又 > 正 (不等号はこの接続関係において許容される度合いを示す)

これは取りも直さず、日本語と中国語の接続関係を考える上で、何が優先されているのかを考える指標になるのではという見方ができるのではないだろうか。別の例も見てみよう。

22) 10月1日

当我正想写“今天非常热”的时候就起了风～

刚才非常的热，非常热，就像夏天一样的热。我蹲在房间里面画画，画了几个小时，就觉得心浮气躁。于是想来感叹今天是多么的热，可是当我晃了一圈刚想写的时候就来了一阵的风……有风就平静拉（原文ママ）～还是成都的风好……哎～不知道在干什么，就这样吧～什么都不想不是最快乐～

ブログ日記より

22) 訳 10月1日

ちょうど「今日はすごく暑い」と書こうとしたとき風が吹いてきた～

ついさっきすごく暑かった、ものすごく暑くて、まるで夏みたいな暑さだった。部屋でしゃがんで絵を描いてたんだけど、何時間か描いてたら、気分がどうも落ち着かないと感じた。それで今日は滅茶苦茶暑いんだなって驚いたんだ、でもちょっと散歩してきてついさっきちょうど（補足：ブログに「今日はすごく暑い」と）書こうとしたとき風が吹いてきた…
…風のおかげで落ち着いたよ～やっぱり成都の風はいいよね……ああ～何やってるのか分かんないけど、こんな感じだよ～何にも考えないってのはいちばん気持ちいいことじゃないかな～

この例では下線部分で用いられている副詞“就”を日本語で訳出するのは難しい。前後のつながりを示す“就”は中国語で実に多く使用されるが、日本語ではこの“就”に相当する感覚は非常に弱く、中日の接続表現に見られる違いの代表的なものである。

23) ??「今日はすごく暑い」と書こうとしたときすぐに風が吹いてきた～

24) ??ちょっと散歩してきてついさっき（補足：ブログに「今日はすごく暑い」と）書こうとしたときすぐに風が吹いてきた……

日本語の「～トキ～」文では「すぐに」を続けるのはかなり制限を受けるだろう。特に後節が「風が吹く」といったような自然現象を表すもので、人間のコントロールが不可能な事態であると違和感が相当大きくなる。こういった場合は副詞“就”を日本語の何らかの言葉で表すのを放棄してしまうのが一般的である。だがしかし、寧ろこの例だったら「ちょうど」を使うのが適切ではないだろうか。

25) 「今日はすごく暑い」と書こうとしたときちょうど風が吹いてきた～

26) ちょっと散歩してきてついさっき（補足：ブログに「今日はすごく暑い」と）書こうとしたときちょうど風が吹いてきた……

一方中国語ではやはりというか、副詞“正”はこの“就”の位置では使いにくい。

27) ??当我想写“今天非常热”的时候正起了风～

またこれは 10 月なのに季節外れの猛暑を感じているという内容であり、数時間もの間風一つないうだるような暑さの中に身を置いていたのだから、「(長時間風も吹かない暑い状態が続いていたが) やっと風が吹いてきた」のように、“就”とは完全真逆、つまり「才」で接続関係を捉えるのが当然なのでは？」という考え方もできる。

28) 10月1日

当我正想写“今天非常热”的时候才起了风～

刚才非常的热，非常热，就像夏天一样的热。我蹲在房间里画画，画了几个小时，就觉得心浮气躁。于是想来感叹今天是多么的热，可是当我晃了一圈刚想写的时候才来了一阵的风……有风就平静拉～还是成都的风好……哎～不知道在干什么，就这样吧～什么都不想不是最快乐～

29) 「今日はすごく暑い」と書こうとしたときやっと風が吹いてきた～

30) ちょっと散歩してきてついさっき（補足：ブログに「今日はすごく暑い」と）書こうとしたときようやく風が吹いてきた……

実際、多少ニュアンスこそ違いますが、こちらも成立するとのことである。しかし全く対照的な性格を持つというのが定説である“就”と“才”が、同じ一つの場面で用いることができるという、この一見矛盾しているような現象はどう解釈すればよいのだろうか。

考えられるのは、28) “才”の場合は風が吹いていない数時間前の段階を起点とし、22) の“就”ではブログに『今日はとても暑い』と書こうとしたその瞬間を起点として、「風が吹いてきた」という時点にまでかかった時間が長いか若しくは短いか、二つの文では事態の切り取り方が異なるのではないかということである。“就”と“才”が真逆の性格を持つと思われているのは、スタートする点を同じに揃えたときに対照的な意味合いを帯びてくることによるのではないだろうか。

一方日本語では、29) 30) の「やっと」のように風が吹いていない数時間前の段階を起点として「風が吹いてきた」のが遅いという長いスパンで捉えることは可能だが、“就”のごとくすぐ直前を起点として短いスパンで考える場合には23) 24) 「すぐに」を用いるよりも、「VP1しようとする→VP2する」この2つの事態が限りなく同時に発生すると捉えるところから、22) 訳のように「ちょうど」の使用に傾くのではないかと思われる。

ここまで“正想 VP1 的时候 VP2”の形式を取り上げて見てきたが、もう少し範囲を広げ「～するとき～」の意味を持つ文型も考えてみよう。

大西 1988 は“φ/在/当A时候, B”という表現を以下の5パターンに分けて、それぞれの意味合いを分析している。

- (I) “φA时候, B” 単純にAがほぼ同時に発生したことを表す無色透明な表現である
- (II) “在A时候, B” A时候を特に取り立てるか、Bが主文であることを明確にする表現である
- (III) “当A时候, B” (I) (IV) 両パターンの意味を兼ね備える
- (IV) “当Aφ, B” ABに時間的前後関係が存在し、Aを契機にBが発生したことを示す
- (V) “φAφ, B” ABがこの順序に並べられることによって、偶然時間関係を表す複文として理解される
特に“当”については「Aを契機にしてBが発生した、正にその時」の意を加えているのではないかと述べている。その箇所を引用してみる。

(III) はまた (I) の意味を表す場合もあるが、(I) と全く同じ意味を表すのではなく、“当”が加えられているということから、同時とはいっても「正にその時」の意が加わるが多い。そのことは

例(9) 当我们准备到老队长家去作客的时候, 外边突然下起雨来了。

(私たちが老隊長の家へ招かれて行こうとした時、突然雨が降り出した)

及び下例(20)のBに副詞“突然”が含まれていることから読みとれる。

(20) 当他在调《行舟》的箏调时, 他突然感觉出那枝在自己跟前。

(彼は『楫枕』の琴の調子を合せている時、突然那枝が自分の前にいることを感じとった)

そして「正にその時」という意味を明示した表現が、例(21)に見られる“正当A时候, B”である。

(21) 正当焦水生愁得心焚至焦时, 传来了一个佳音。

(焦水生がいらいらしているちょうどその時、いい知らせが伝えられた)

大西 1988 より、一部例文の配置を変え、アンダーラインを追加している

>

ここで例に挙げられている“正当焦水生愁得心焚至焦时, 传来了一个佳音。”であるが、“正”を後節にずらすとたちまち文が成立しにくくなるのは、助動詞“想”があったときと同様である。

31) ??当焦水生愁得心焚至焦时, 正传来了一个佳音。

(焦水生がいらいらしているその時、いい知らせがちょうど伝えられた)

大西 1988 は、“当”が「Aを契機にしてBが発生した、正にその時」の意ではないかと考える説明として、副詞“正”がそれを修飾していることを挙げているのだが、それ以外に後

節に副詞“突然”が現れていることも例示し触れていた。これらの例から“突然”を除くと次の通りになる。

32) 当我们准备到老队长家去作客的时候, 外边下起雨来了。

33) ? 当他在调《行舟》的箏调时, 他感觉出邦枝在自己跟前。

32) では特に問題はないが、33) の後節から“突然”を除いてしまうと、文自体は成立することは成立するのだが、意味が若干異なってくるようである。この場合「彼は『楫枕』の琴の調子を合わせている時(にはいつも)、邦枝が自分の前にいることを感じとっている」のように、恒常的に発生している事態を表す意味になってしまうようである。とすると“当他在调《行舟》的箏调时, 他突然感觉出邦枝在自己跟前。”では一回性の出来事であることをはっきり示すために、この「突然、急に、ふと」という意味の“突然”という副詞が添えられているという考え方もできるかもしれない。

また“正想 VP 1 的时候 VP 2”の VP 2 には別の意味合いの副詞もよく用いられる。

34) 「是呀! 你看我每天都带刚写满的前一本家教笔记到学校去呢! 学生这么用功, 照理说老师应该给点奖励吧!」我一边打开我的书包找那本笔记, 一边对他说, 一不小心, 我夹在书里的两封信掉了出来, 我赶紧弯下腰把其中一封捡了起来, 正想捡另外一封的时候, 居然被他捡走了。

「给美丽大方的小曦, 喔! 情书喔! 真不简单, 男朋友写的吗?」他似笑非笑的看著我。

「哪有, 我没有男朋友呀! 每天念书就累死人了, 连上街的时间都没有, 哪来时间交男朋友呀!」不晓得为什么, 我急於否认。 《家教爱情故事》より

34) 訳 「そうですね! ほら、毎日びっしり書いた家での勉強用のノートを学校に持って行ってるんです! 生徒がこんなに頑張っているのだから、理屈から言えば先生が少しは褒めてくれるべきです!」私はカバンを開けてそのノートを探しながら、先生に話していたら、うっかりして本の中に挟んでいた二通の封筒が落ちてしまい、慌てて腰をかかめて一通を拾い上げ、もう一通も拾おうとしていたとき、なんと先生に拾われてしまった。

「綺麗で素敵なお曦へ、へえ! ラブレターじゃないか! すごいな、彼氏が書いたのか?」彼は笑っているようなないような表情で私を見ていた。

「そんなんじゃないです、彼氏なんていません! 毎日勉強でぐたくたに疲れて、街に出かける時間もないんだから、男の子と付き合う時間なんてあるわけじゃないです!」訳も分からず、私は慌てて否定した。

中国語の複文では“就”や“才”に限らず、実に様々な意味合いを持つ副詞が多用される。特に「意外性を表す」とされる“居然”や“却”などは、日本語での感覚に比してかなり目立って多用される語である。

“又”に“就”や“才”、“突然”や“居然”などは、“(正想) VP 1 的时候 VP 2”の後節 VP 2 を修飾する位置に現れることができるが、“正”はそれがかかなり難しい。前節には多用されるが後節に現れることが難しい“正”には、これらの副詞とは異なる独特の性格があるのではないかということになる。

4. “正”と、類義副詞“正好”“恰好”について

話を最初に戻そう。《現代汉语八百词》における副詞“正”の説明「2. “巧合”、“恰好”、

“刚好”を表す。a) [正+動詞。] でこんな例文があった。

・正出门，车就来了（ちょうど玄関を出たら、バスがすぐに来た）

これは次のような“～的时候～”を使って表すこともできる。

35) 正出门的时候，车就来了

36) ?ちょうど家を出たとき、バスがすぐに来た

日本語の「すぐに」は「～トキ」の後では若干違和感がある。「～タラ」文の後ろに用いられる方がより一般的だろう。

37) ??出门的时候，车正来了

38) 家を出たとき、バスがちょうど来た

“正想 VP 1 的时候 VP 2” 構文に限らず、“～的时候～” の後ろの VP 2 が“正”の修飾を受けにくいことは共通している。先ほど“正想 VP 1 的时候 VP 2”の構文を持つ例を取り上げ、“正”の位置の違いによる成立度合いの違いを確認したが、これは“正 VP 1 的时候 VP 2”でもある程度当てはまるようである。

但しこの“正”を“正好”“恰好”といった副詞に置き換えるとこれは成立する。

39) 出门的时候，车正好 / 恰好来了

40) 家を出たとき、バスがちょうどよく来た

37) と 39) の成立度合いが異なる理由はどこに求めればいいのか。35) では“车就来了”とあるとおり、一音節の副詞“就”が用いられていることから単に音節数制限が働いているとは解釈できない。となるとこれはやはり、“正”と“正好”“恰好”の間に存在している違いに由来していると考えなければならない。ということで今度は《現代汉语八百词》における“正好”“恰好”の説明を確認してみよう。

《現代汉语八百词》における“正好”の項目説明

〔副詞〕 表示某种巧合（多指时间、情况、机会条件等）。意思相当于‘恰好，正巧’。（ある種の偶然の一致を指す（多くは時間、情況、機會条件などを指す）。意味は“恰好”“正好”に相当する）

- a) 正好+動。 （正好+動詞）
- b) 正好+数量 [+名]。 (正好+數量詞 [+名詞])
- c) 正好+形。 （正好+形容詞）
- b) 用在主語前。 （主語の前で用いる）

《現代汉语八百词》における“恰好”の項目説明

〔副詞〕 正好在那一点上（指时间、空间、数量等；有不早不晚、不前不后、不多不少、不…不…的意思）
（ちょうどその点にあることを表す（時間、空間、数量などを指す；早くも遅くもない、前でも後ろでもない、多くも少なくもない、…でも…でもないという意味）

- a) 恰好+数量 [+名]。 (恰好+數量詞 [+名詞])
- b) 恰好+形。 (恰好+形容詞)
- c) ‘恰好’用在主語前。 (“恰好”は主語の前で用いる)

“正好”“恰好”、ともに何らかの偶然性を表すときに用いる副詞であるが、それは特に「時間や情況」といったものに重点が置かれていることに注意されたい。

伊藤 2006 では中国語の副詞“偶然”を取り上げ、それが日本語の「偶然(に)」が使える文では当てはまらない現象があることから、“偶然”は動作の偶然性を示すことに特化しているのではないかという仮説を立て、“正好”“恰好”“湊巧”といった副詞が動作そのものとい

うよりも動作の対象である目的語などに焦点が置かれていることと比較して考察をした。そしてここから考えを推し進めると、副詞“正”は、“偶然”と“正好、恰好”の中間ぐらいに位置するのではないかと思われる。これらを並べて示すと以下のような関係になる；

動作の偶然性を示す←“偶然”…“正”…“正好、恰好”→動作以外に纏わる偶然性を示す

《現代汉语八百词》の“正好”「ある種の偶然の一致を指す（多くは時間、情況、機会条件などを指す）。a) 正好+動詞」における例文を見てみよう。

・我去王老师家的时候，正好遇到他们俩

(王先生の家に行ったとき、ちょうど彼ら二人に会った)

これはアンダーラインの“正好”を“正”に置き換えても問題なく成立する。《現代汉语八百词》の“正”説明文中にあった「2. “巧合”、“恰好”、“刚好”を表す」の全くその通りである。

41) 我去王老师家的时候，正遇到他们俩

但しこの“正好”≒“正”が成立するのにも限度があるのだろう。41) で述べられている「偶然の一致」というのは単に「遇到」という動作が問題なのではなく、最も肝心なのは文中の“我”が恐らく会いたいと考えていた“他们俩”(=彼ら二人)と接点を持てたということであろう。その裏返しとして、動作以外の情報が「偶然性」を求めるには弱すぎると、“正”で表すのは難しくなり非文に近づくのではないか。先に例に挙げた 27) であるが、“想 VP 1 的时候正 VP 2”では成立が難しかったが、“正好”にすれば成立度は上がる。

27) ??当我想写“今天非常热”的时候正起了风～

42) 当我想写“今天非常热”的时候正好起了风～

これは動作以外の成分、ここでは目的語“風”であるが、何ら特定するような情報もなく意味合いも不定表現としての「風」でしかないため、41) のような文に比べて動作以外に偶然性を求めるにはこの VP 2 では弱いと言えるだろう。“正好”は「ちょうどいいことに～」の意味合いで、ブログに書き込もうとしていた瞬間と風が吹いたタイミングそのものに偶然性を求めることができるのだろうが、“正”ではそこまでの力はないために、ここで「2. (“正”は) “巧合”、“恰好”、“刚好”を表す」に当てはまらない現象が起きてしまうのではないか。

また複数のインフォーマントから成立しないという明確な回答が得られた 17) であるが、この文における VP 2 は“醒了”だけであり、VP 2 における動作以外の情報は皆無に等しい。いくら“正”は「2. “巧合”、“恰好”、“刚好”を表す」という説明で解釈しようとしても、それが修飾する対象が動作のみを表す形式である以上、この“正”は実は“正好”や“恰好”と同じ意味を表しているものなのだと考えようとしても無理があるようである。

17) *昨天半夜，平时难得做梦的我却做了一个梦，梦里和别人抢辣椒吃，抢呀抢呀，好不容易抢到手了，想吃的时候正醒了。。。。。

“正”が“正好、恰好”の意味合いを表すのに傾くのは、それが修飾する動詞フレーズの中に「動作以外」の成分を含んでいる場合であって、純然たる動作のみを示す表現であればあるほど“偶然”に近づき、“(想) VP 1 的时候正 VP 2”構文では不適格になるのではないだろうか。

5. “正”の表す「ちょうど」とは？

同じことを書いているようでいて、“正”の出現に差がある例を紹介する。

43) 下班时候正下雨

今天下班的时候下雨了，我并没有急着走，是听急着走而又返回拿伞的同事说的。感觉很好，落地窗外下着雨，我听着歌写我的博客。这个星期下班的时候我都不急着走的，一来隔壁实验室的师兄过来找工作住在家里^{注2)}，不熟悉，一个人回家太早有点尴尬。二来晚点走车站的人会比较少，坐车可以不必挤。看看书或是去网上溜达一下都不错。 ブログ日記より

43) 訳 仕事から帰るときちょうど雨が降った

今日仕事から帰るとき雨が降った、私は全然急いで帰ろうとはしていなかったが、あたふたと会社を出ようとしてまた傘を取りに戻ってきた同僚によるとそうらしい。いい気分で、大きな高窓の外は雨が降っており、私は歌を聴きながら自分のブログを書いていた。今週仕事から帰るときには私はいつも急がずのんびり会社を出ていた、一つには実験室の先輩が仕事を探しに来ていてうちに滞在しており、あまりよく知らない人なので、一人で家に帰る時間が早すぎるのはちょっと気まずいということだ。二つ目として少し時間が遅いと駅に行く人は割りと少ないので、電車に乗ってもそれほど混まないからだ。本を読んだりネットでちょっと時間をつぶしたりするのもいいものだ。

これはブログ日記からであるが、タイトルが“下班时候正下雨”となっていて、その直後に“今天下班的时候下雨了、～”という文で日記が始まっている。この書き出しの文を“VP 1的时候正 VP 2”の形にすると、成立しにくくなってしまふ。

44) ??今天下班的时候正下雨了，我并没有急着走，是听急着走而又返回拿伞的同事说的。

ブログタイトルも日記の書き出しも、どちらも全く同じことを述べようとしているのに、どうして“正”の有無で成立度合いが変わってくるのだろうか。

筆者の解釈は、タイトルの方は「文」として成立するかどうかをあまり気にしなくてもよい性質のものであり、コンパクトにまとまった表現であること自体が求められ（加えて中国語は五言・七言といったリズムを愛する言語である）、一方書き出し文は文としての流れを重んじられるためそれに合致しないものは拒絶されるのではという、「文」としての在り方の違いによるのではないかというものである。

44) では“??今天下班的时候正下雨了，我并没有急着走，……”と、“正下雨了”の後に続いているのはその後発生した動作や事態の描写ではなく、話者自身が「行わなかった」自分の行動について叙述している内容である。インフォーマントチェックによると、“今天下班的时候正下雨了，……”の部分だけ取り出して見てみると、言い切りの形にならず何か後ろに続く気がするという感想だった。だが44)が難しいということは、とにかくカンマの後に何らかの節が続けばそれで良いということではないようだ。恐らく「ちょうど雨が降った」という事態とほとんど同時かすぐ後に偶然発生した出来事が続けば、成立する可能性がある。それは言い換えれば“正想 VP 1的时候 VP 2”の枠を超え、“正 VP 1, VP 2”パターンがほぼ同時に発生した VP 1 と VP 2 の偶然性を示そうとし、44)の“我并没有急着走”はこのパターン内の VP 2 にはならずその意図とは合致しないため、成立が困難になるのではないかと解釈できる。

最後に改めて、中国語の“正”と日本語の「ちょうど」を比較して考えてみたい。中国語

の“正”は、それが修飾する動詞フレーズが動作のみを表すのかそれとも動作以外の情報を含むのかによって性格が変わってくるのではと考察してはみたが、では日本語の「ちょうど」はどこに位置づけたらよいのだろうか。「ちょうど」は“正”よりも広い意味合いをカバーしているということは明らかに見て取れるが、それならば「ちょうど」は中国語の副詞“偶然～正～正好、恰好”にまたがる存在であるという解釈だけで済ませてしまってもよいのだろうか。

17) *昨天半夜, 平时难得做梦的我却做了一个梦, 梦里和别人抢辣椒吃, 抢呀抢呀, 好不容易抢到手了, 想吃的时候正醒了。。。。。

18) 昨日の夜中、いつもはめったに夢を見ない私が珍しく夢を見て、夢の中で他の人とトウガラシを食べようと奪い合っており、しきりに取り合っていて、やっとのことで手に奪い取って、食べようとしたときちょうど目が覚めた……

第2節で取り上げた例であるが、18)の「ちょうど」が修飾している「目が覚めた」は、例えば“我去王老师家的时候, 正遇到他们俩”(王先生の家に行ったとき、ちょうど彼ら二人に会った)に見られるような動作以外の情報について言えば、中国語の例17)と同様乏しいということには変わりない。であるにもかかわらず、「～トキチョウド～」が多く成立することから、中国語と日本語の接続関係そのものに根本的な違いがあると考えなければならないようである。

また“～時候～”「～トキ～」表現を離れた用法においても、中国語と日本語とで異なる面もある。

45) 可乐道：“现在是半夜时间，当然夜宵了，走吧，你想吃什么？我这回听你的。”

我道：“听我的？好，那就吃香港云吞面吧。”

可乐惊喜的道：“你也喜欢云吞呀，我正想吃呢！”

我们开着车子去了那家最有名的旺角云吞馆，要了两碗鲜虾云吞面。可乐还在摆弄她的相机，在一张一张认真的看片子，我道：“喂，别看啦，回去再看。” 《半条小命》より

45) 訳 可楽（コーラ）は言った。「今は夜中なんだから、当然夜食よ、行きましょう、何が食べたい？今回は貴方の言うこと聞いてあげる」

「言うことを聞いてくれるのか？よし、それじゃ香港のワンタンメンを食べよう」

可楽は喜んだ様子で言った。「貴方もワンタンが好きなのね、私もちょうど食べたいんだ！」

僕は車を運転して走らせそのいちばん有名な旺角ワンタン館に行き、二杯のエビワンタンメンを注文した。可楽はまだ彼女のカメラを手で操作していて、一枚一枚実に真剣な様子で写真を見ており、僕は「なあ、もういいだろ、帰ってから見れば」と言った。

下線部“我正想吃呢！”は「私もちょうど食べたいんだ！」と訳してみたが、他に「私もちょうど食べたいの！」「私もちょうど食べたかったんだ！」といった訳し方もできるだろう。日本語で何か一緒にすることについて相手に意向を尋ねた場合、返ってきた答が自分の望むものと偶然一致していたとき「自分もちょうど～したかった(のだ)」と、時制を現在から過去へとずらして表現することが多い。この例での発話者(=可楽)は発話時現在においてももちろん「ワンタンを食べたい」という願望を持っているのだが、「貴方がワンタンを食べようと提案する前の時点で既に、自分はワンタンを食べたいと思っていた」と自分の願望を前

の時制にずらして述べることで「私たち二人の願望が一致したのは偶然である」と聞き手に伝えるわけである。しかし中国語では時制表現そのものがないことから、日本語と同じようなわけにはいかない。果たしてこの“我正想吃呢!”のような文では偶然性をどのように捉えているのか、そこには日本語とは異なるルールが働いていることが予想される。

“正”を始めとする接続表現に見られる副詞の性格の違いと、文としての流れを決定するそれらの用法、また偶然性を考える上で時制への対処の仕方に見られる中国語と日本語との違いが、今後の検討課題となるものである。

注1) 正想偷偷摸一下的时候, 被妈妈发现了, 正是不郁闷!

“郁闷”は「憂鬱で気分が重い」の意であり、この例では否定辞がついているが、全体の意味としては肯定と同じ意味になる。

注2) …, 一来隔壁实验室的师兄过来找工作住在家里, …

“隔壁”は「壁を隔てたとなり」の意味であるが、この文の“隔壁实验室的师兄”は「仕事を探している」無職状態の人であり、このブログ日記筆者の職場における「となりの実験室」という意味では解釈できない。これは恐らく大学時代のことについて述べているのではと推察される。

【参考文献】

- 《現代汉语虚词例释》商务印书馆 1986 北京大学中文系 1955 1957 级语言班编
 《現代汉语八百词 增订本》商务印书馆 1999 吕叔湘主编
 《現代汉语副词探索》上海世纪出版集团 2004 张谊生
 『講談社中日辞典 第二版』講談社 1998 相原茂主編
 大西智之 1988 「“φ/在/当A时候, B”について」 『中国語学』235号 p129-135
 伊藤加奈子 2006 「中国語の“偶然”に関するノート」 『信州大学人文学部人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』第40号 p103-110

【言語資料】

- テレビドラマ《王子变青蛙 剧本版》
 《家教爱情故事》 DJ (台湾作家) 作
 《你听见风吹的声音吗》 水晶宝贝 作
 《欲望》 宋梓场 作
 《半条小命》 瓜哥 s 作

(2007年11月20日受理)